

2025年12月28日（降誕後第1主日、A年）

メッセージ

「神の主権を奪うこと」

（マタイによる福音書2:13-23）

司祭ヨセフ太田信三

創世記とイエス誕生の物語には、重なるテーマがいくつもあります。その一つが、カインによる弟殺しと、ヘロデによる嬰兒大量虐殺です。カインが弟を殺めるのは、神による創造の直後。ヘロデによる嬰兒大量虐殺は、神による世界の再創造とも言えるイエス誕生の直後です。

十戒に「殺してはならない」とあります。このような当たり前のことが記されているのは、まず人が人を殺している、という現実があるということです。残念ながら、現在でもその現実は変わらずにあります。その現実に向けて十戒が伝えるのは、生殺与奪の権利は神のみにある、ということです。「殺す」ということは、神にのみあるその権利を人間が奪い、人間が神に成り代わってしまっているということに他なりません。カイン、ヘロデのいずれも、嫉妬や虚栄心、恐れといった様々な人間的思いの中で、神の主権を奪い、自らが神に成り代わってしまったのです。

カインは嫉妬で弟を殺します。ヘロデも嫉妬や、自らの地位が脅かされることへの恐怖から幼い命を殺めました。このことに思いをし、今の現実を見渡すと、カインから私たちが生きる現在までも、人が変わることなく罪深い存在であることを知らされます。自らに全ての主権があると勘違いし、自らを王としてしまうのが人間。私たちはカインやヘロデと同じ人間なのです。この人間の姿を、聖書は初めから私たちに示しています。

ヘロデの大量虐殺の事件は、イエスの誕生と並行して進行していました。私たちがクリスマスをお祝いしているその時、私たちの生きるこの世界では、自らを王として、神としてしまっている人間がおり、「殺してはならない」という戒めに背いている現実があることを忘れてはなりません。そして、イエス・キリストは、このような人間によって十字架につけられ、殺されてしまいます。しかし、イエスは十字架上で「この人たちを赦してください。自分が何をしているのかわかっていないのです。」と祈ってくださいました。無自覚なままに自らを王、神とまでしてしまう私たちのために、主イエスは祈ってくださるのです。主のご降誕をお祝いするこの期節。私たちがどんなに罪深い人間であっても、この私たちのために祈り、愛し抜いてくださる救い主の誕生を心からお祝いいたしましょう。そのためにも、自分自身がカインやヘロデと変わらぬ性質を持つ存在であることを自覚し、この自分のためにも祈ってくださるイエス様の愛を受け取りましょう。そしてその愛を携えて、この世界へと派遣されてまいりましょう。